



2025年9月期2Q  
**決算補足説明資料**

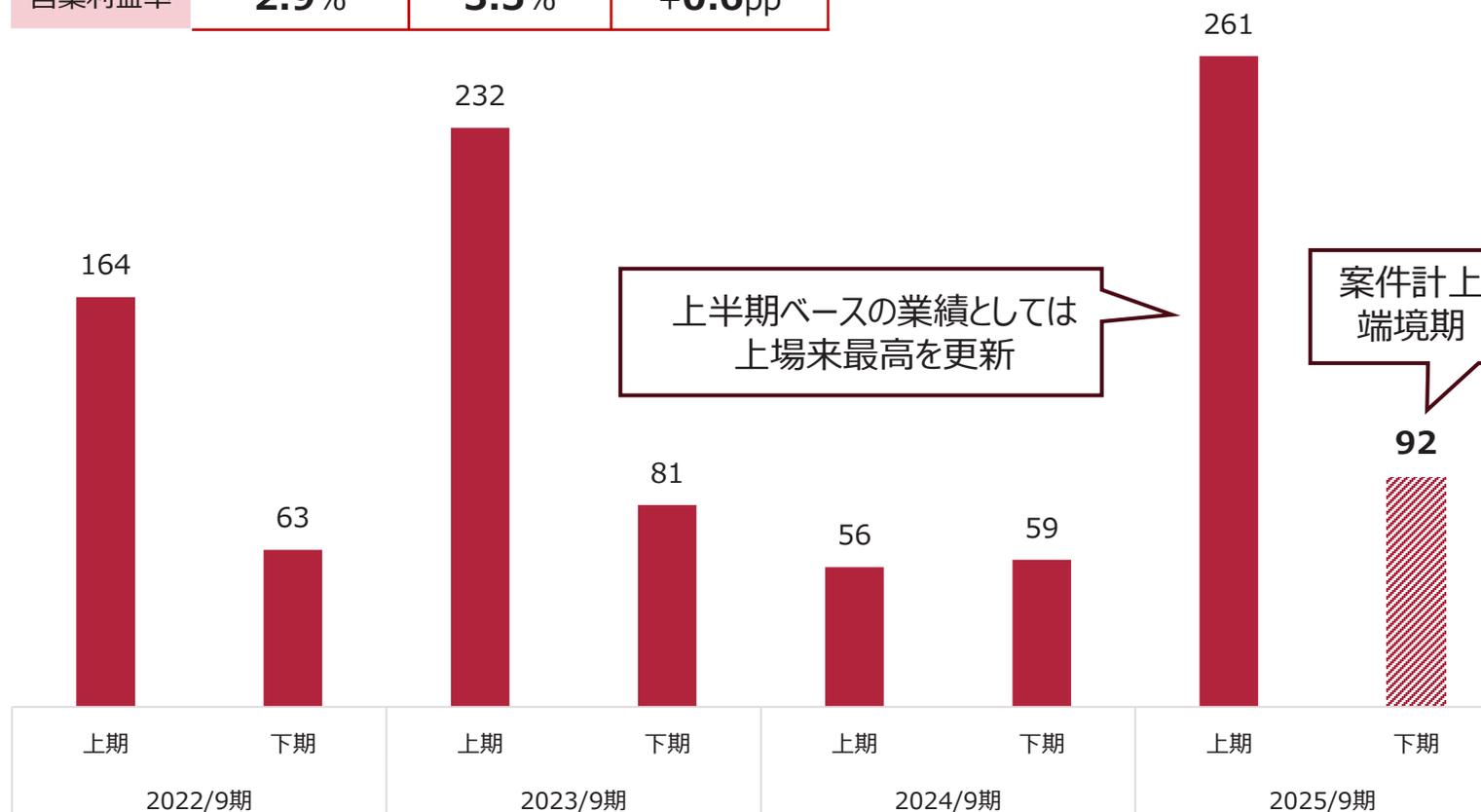
©KLASS Corporation

2025年5月

**6233**  
東証スタンダード  
**KLASS株式会社**

	2025/9期通期見通し		従来-修正 差異
	従来見通し	修正見通し	
売上高	105.0億円	101.5億円	▲3.5億円
営業利益	3.0億円	3.5億円	+0.5億円
営業利益率	2.9%	3.5%	+0.6pp

## 半期別営業利益推移



25/9期上期は前年同期比増収増益。特に、**営業利益は約5倍に急拡大**

上期の好調を受け、**通期見通しを修正**。ただし、**下期は対上期では産業機器の案件端境期となり、一旦調整**

# 2025/9期 上期決算概要

極東産機は、



■ 25/9期上期は増収増益。売上・営業利益ともに上半期ベースの業績としては上場来最高を更新

■ 営業利益率も上場来最高値となる**5.3%**を計上。全セグメントが黒字を計上したのはコロナ禍直前の2020/9期上期以来

■ なお、インダストリーセグメントの減収が目立つも、これは**一部契約が材料支給型となった**ため。この方式での売上は組立工程分のみを計上

(百万円)	2024/9期		2025/9期		
	上期	下期	上期	対前年同期比	
				増減額	増減率
売上高	4,757	5,024	<b>4,939</b>	<b>+182</b>	<b>+3.8%</b>
プロフェッショナル	3,363	3,329	<b>3,531</b>	<b>+168</b>	<b>+5.0%</b>
コンシューマ	364	341	<b>398</b>	<b>+34</b>	<b>+9.3%</b>
インダストリー	731	988	<b>679</b>	<b>▲52</b>	<b>▲7.1%</b>
ニュー・インダストリー	298	364	<b>330</b>	<b>+32</b>	<b>+10.6%</b>
営業利益	56	59	<b>261</b>	<b>+205</b>	<b>4.7倍</b>
プロフェッショナル	▲65	▲119	<b>28</b>	<b>+93</b>	-
コンシューマ	▲2	▲10	<b>15</b>	<b>+18</b>	-
インダストリー	97	186	<b>169</b>	<b>+71</b>	<b>+73.3%</b>
ニュー・インダストリー	25	2	<b>47</b>	<b>+22</b>	<b>+86.6%</b>
経常利益	41	70	<b>240</b>	<b>+198</b>	<b>5.8倍</b>
親会社株主帰属当期純利益	11	64	<b>172</b>	<b>+161</b>	<b>15.0倍</b>
営業利益率	1.2%	1.2%	<b>5.3%</b>	<b>+4.1pp</b>	
経常利益率	0.9%	1.4%	<b>4.9%</b>	<b>+4.0pp</b>	

2Q発生ベースも前年同期比較で増収増益。**営業利益率8.7%**はこちらも上場来最高。営業利益も四半期別では過去最高

セグメント別でも軒並み増収増益。中でも、インダストリーセグメントが全体利益を牽引

厳しい状況にあった**プロフェッショナル・コンシューマ**の両セグメントも揃って黒字を確保。赤字の継続していた**コンシューマ**セグメントも遂に黒字浮上

(百万円)	2024/9期				2025/9期		前年同期比	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	増減額	増減率
売上高	2,201	2,556	2,368	2,655	2,146	<b>2,793</b>	<b>+237</b>	<b>+9.3%</b>
プロフェッショナル	1,573	1,789	1,600	1,728	1,651	<b>1,880</b>	<b>+91</b>	<b>+5.1%</b>
コンシューマ	196	168	171	169	211	<b>187</b>	<b>+19</b>	<b>+11.3%</b>
インダストリー	310	420	461	526	162	<b>516</b>	<b>+96</b>	<b>+22.9%</b>
ニュー・インダストリー	120	178	134	230	120	<b>209</b>	<b>+31</b>	<b>+17.4%</b>
営業利益	▲33	89	18	40	17	<b>244</b>	<b>+155</b>	<b>2.7倍</b>
プロフェッショナル	▲68	3	▲77	▲42	▲10	<b>38</b>	<b>+35</b>	<b>12.7倍</b>
コンシューマ	▲1	▲0	▲5	▲4	9	<b>6</b>	<b>+6</b>	<b>黒字転換</b>
インダストリー	31	66	94	92	6	<b>163</b>	<b>+97</b>	<b>2.5倍</b>
ニュー・インダストリー	5	19	7	▲5	11	<b>36</b>	<b>+17</b>	<b>+89.5%</b>
経常利益	▲37	79	34	36	5	<b>234</b>	<b>+155</b>	<b>3.0倍</b>
親会社株主帰属 当期純利益	▲35	47	23	40	2	<b>169</b>	<b>+122</b>	<b>3.6倍</b>
営業利益率	▲1.5%	3.5%	0.8%	1.5%	0.8%	<b>8.7%</b>	<b>+5.2pp</b>	
経常利益率	▲1.7%	3.1%	1.5%	1.4%	0.3%	<b>8.4%</b>	<b>+5.3pp</b>	

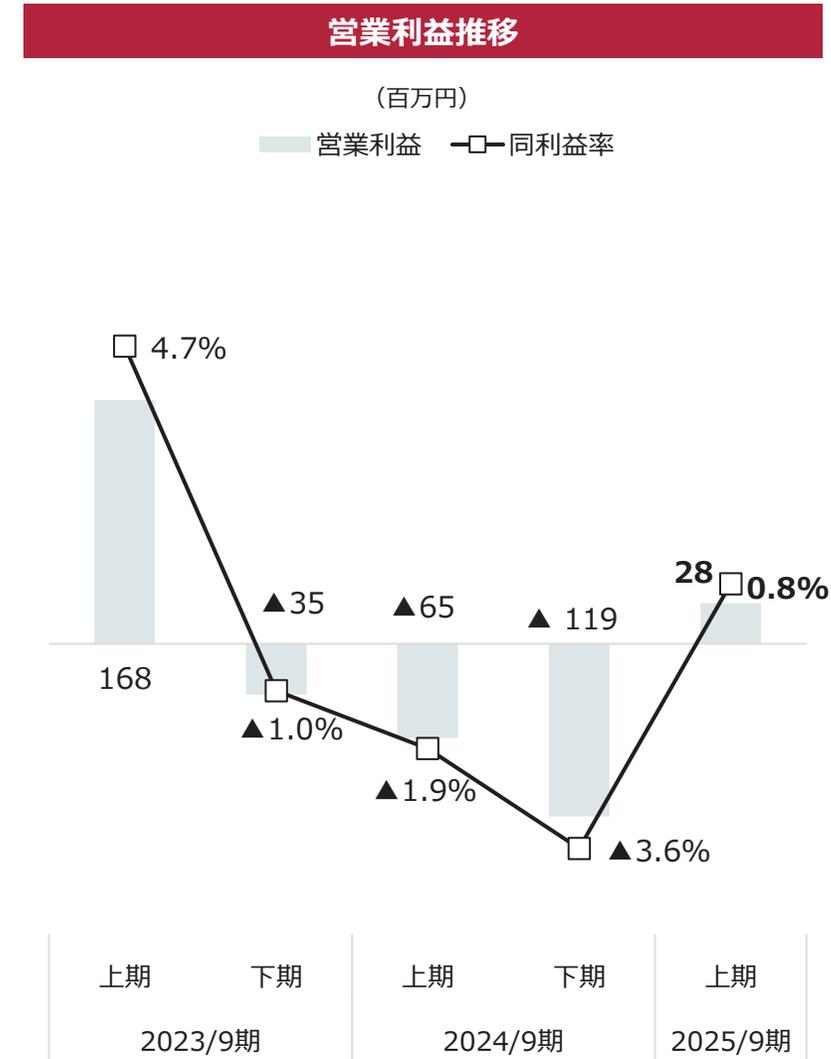
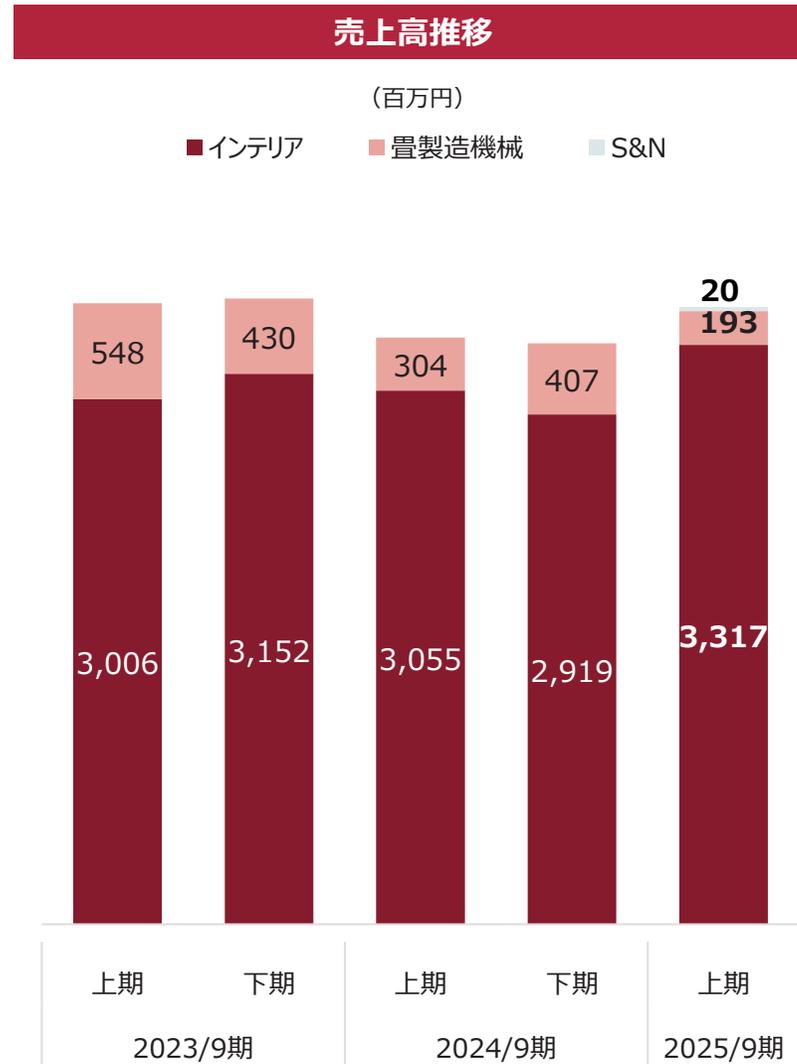
■ 前年比増収増益。畳関連は厳しい状況ながら、インテリア製品が好調に推移。営業利益は4半期ぶりの黒転

## ■ インテリア：増収

- 値上げ改定前の駆込需要が発生。自動壁紙糊付機や工事施工用消耗品の販売が増加
- 前期から引き合いのあった大手壁紙ブランドメーカーの物流倉庫向け壁紙検尺機も予定通り納入

## ■ 畳：大幅減収

- ものづくり補助金の採択一巡により、畳店の投資意欲が後退。補助金活用で需要先食いがあった反動もあり、売上規模は大きく落ち込む



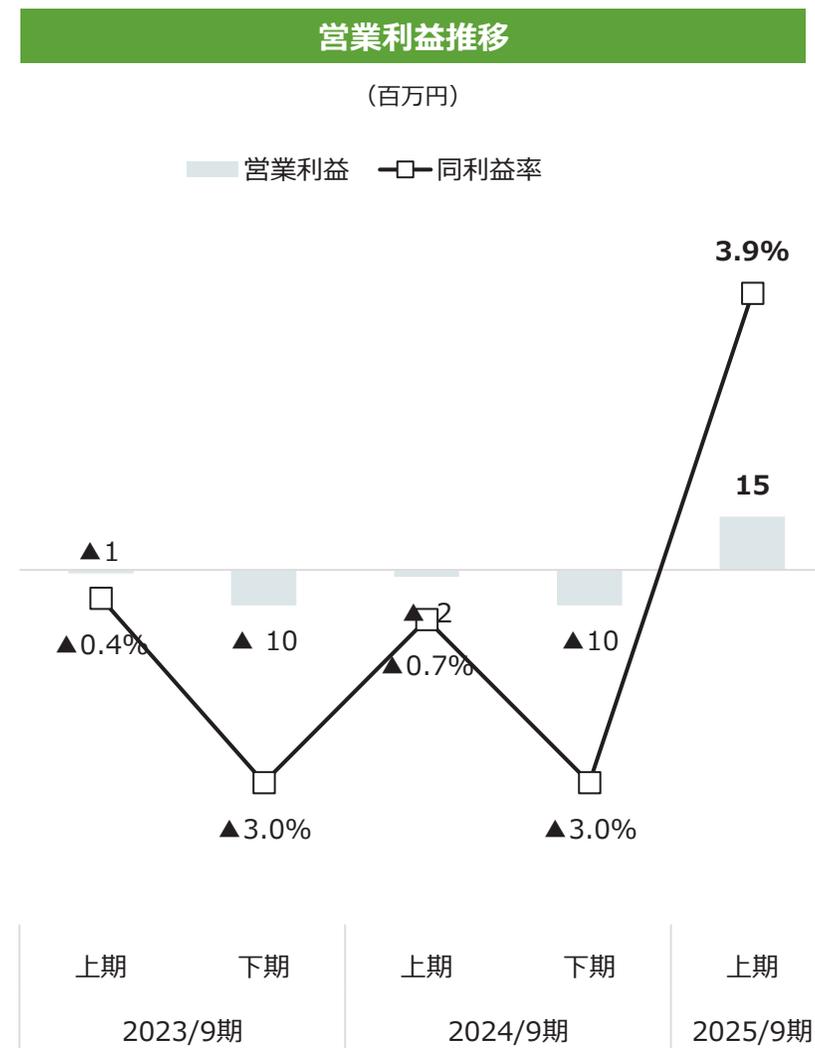
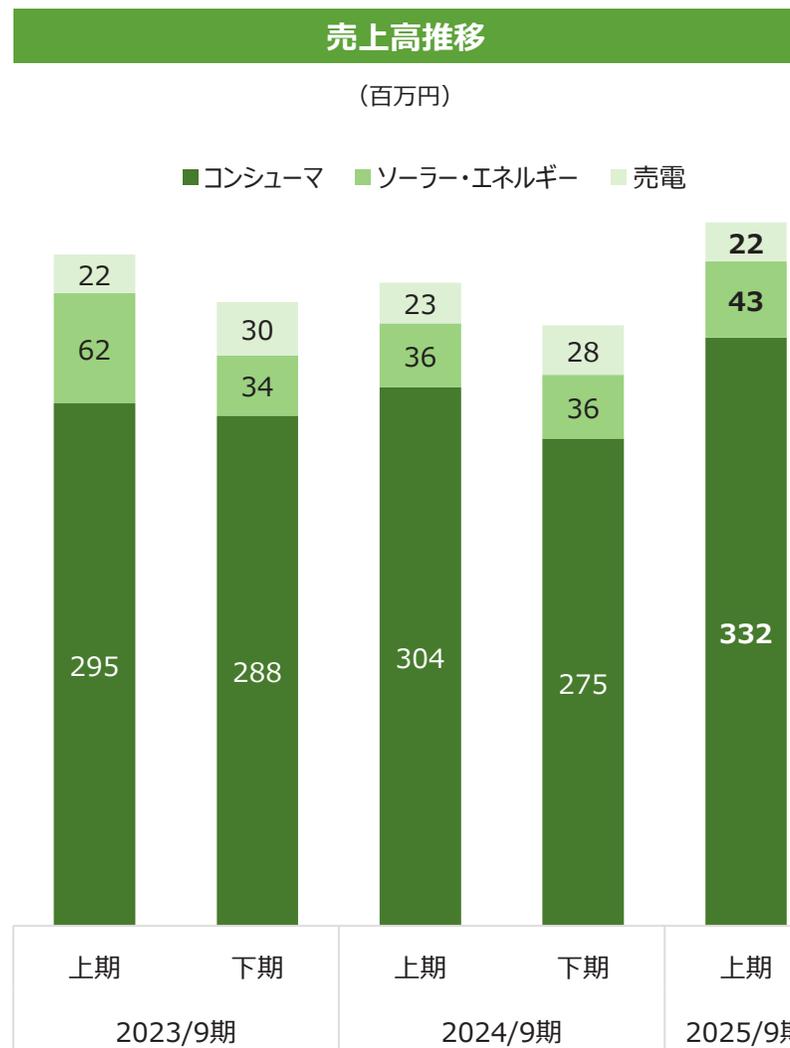
■ **増収増益。半期ベースで見た場合、営業利益は2020/9期下期以来となる黒字転換**

## ■ コンシューマ：大幅増収

- 棺用畳と宿泊施設向け特殊畳が好調
- 棺用畳は販売増に加え、生産国内シフトの推進により利益率向上も実現。宿泊施設向け特殊畳は大型案件を獲得
- これまで堅調だったフィットネスクラブ向けの防振・防音ボードは、フィットネスクラブの郊外の小型店舗（一階に設置）の増加により、防音・防振対策需要が低下

## ■ ソーラー・エネルギー、売電

- 順調推移



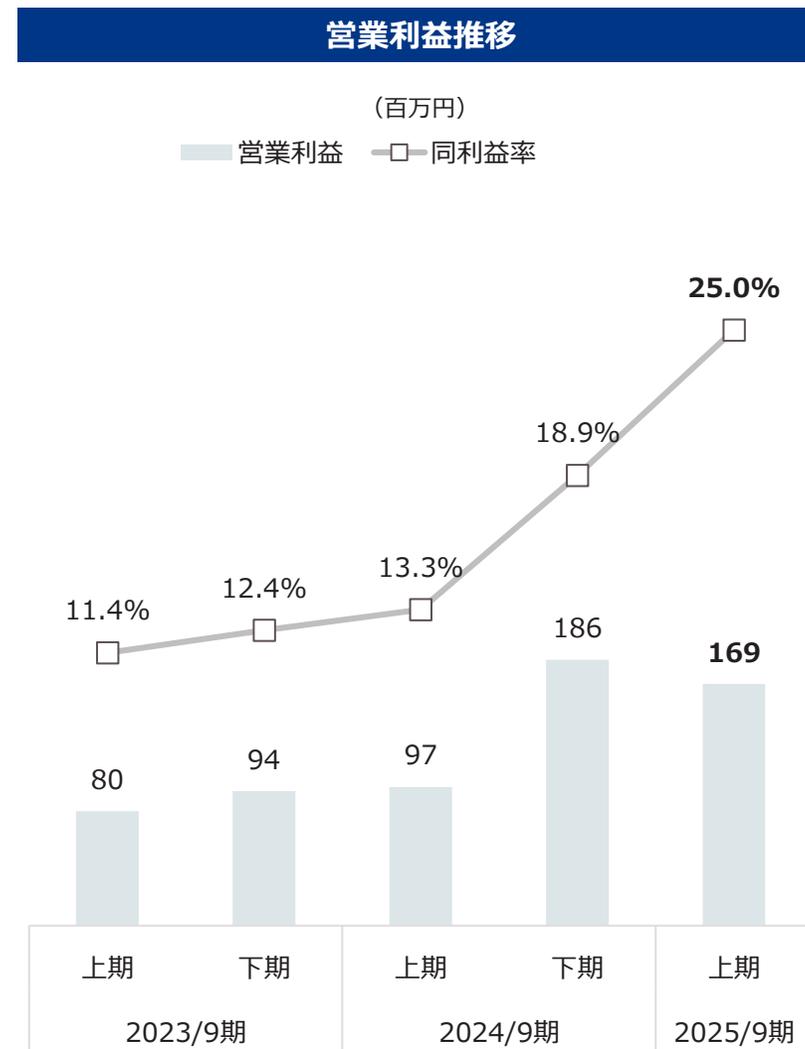
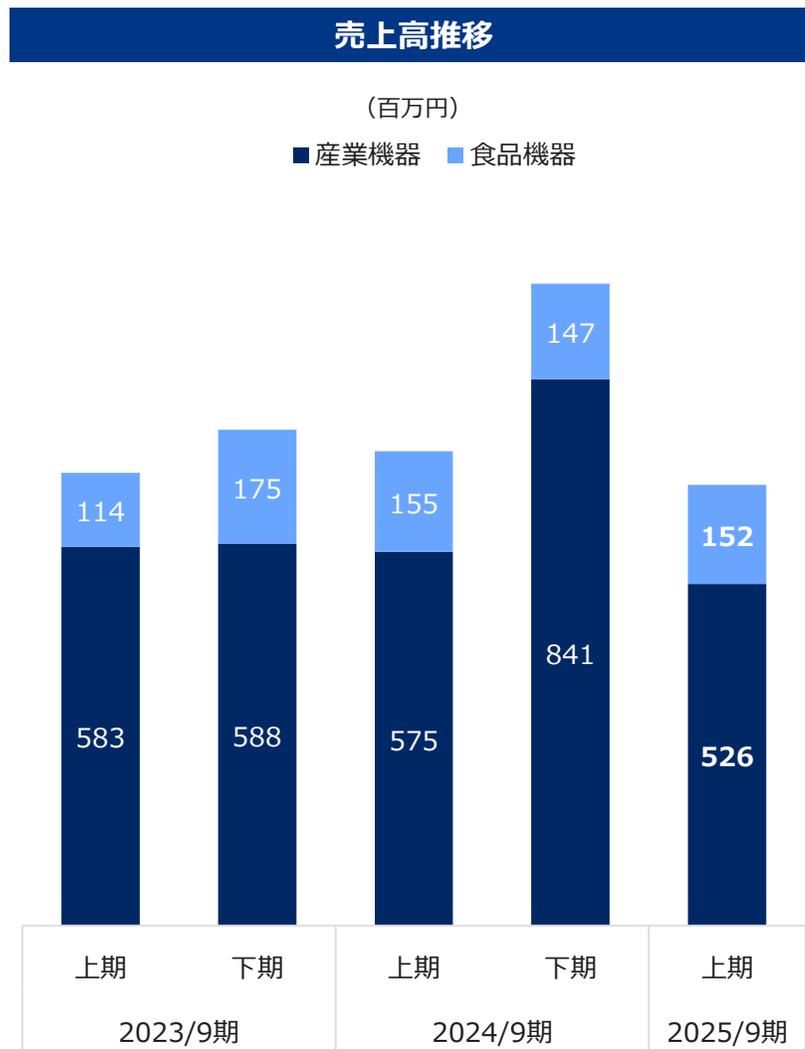
## 減収増益。営業利益率は25%に大幅上昇

### 産業機器 減収も実態は好調

- 減収の主因は、二次電池製造装置の受注方式変更。材料を自社仕入れしていたこれまでの一括方式が材料支給方式となり、売上には組立工程のみを計上
- その分、組立工程では精緻な原価分析を実施し工数削減を実現。見かけの売上規模が圧縮されたこともあり、利益率は大幅に改善
- また、当社コア技術「検尺」「裁断」、さらに「積層」・「巻取」技術など当社の得意とする「シート状素材のハンドリング技術」に着目した脱炭素関連装置の引合にも対応し売上済。当社技術の活用領域拡大を実現

### 食品機器 増収

- 大手飲食チェーンからのマルチ DISPENSER の引き合いが回復。4月オープンの大阪・関西万博会場やGLION ARENA KOBE 内の店舗にも機械を納入・設置



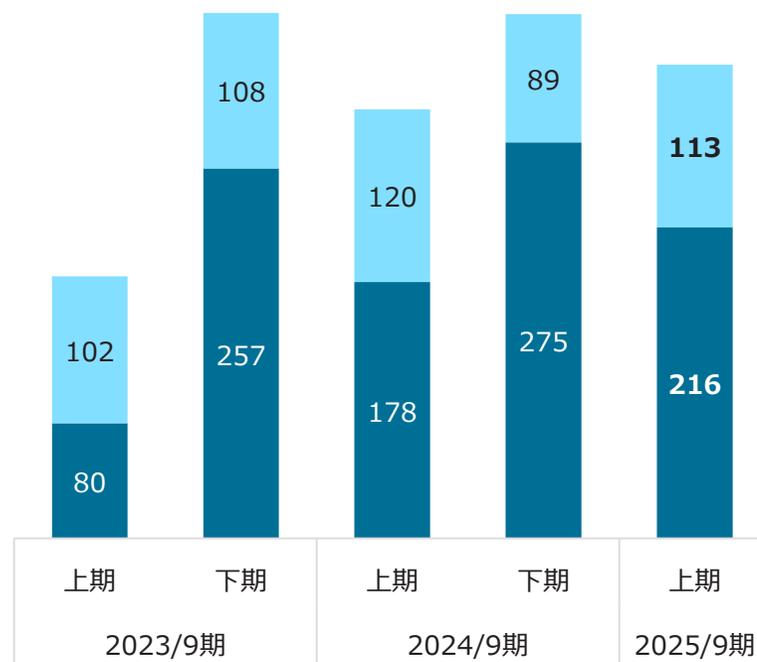
■ 増収増益。前期に続いて自動車関連業界向けの大型機や消耗品の受注が拡大

■ 営業利益率は14.2%と、インダストリーセグメントに次ぐ高採算セグメントに浮上

## 売上高推移

(百万円)

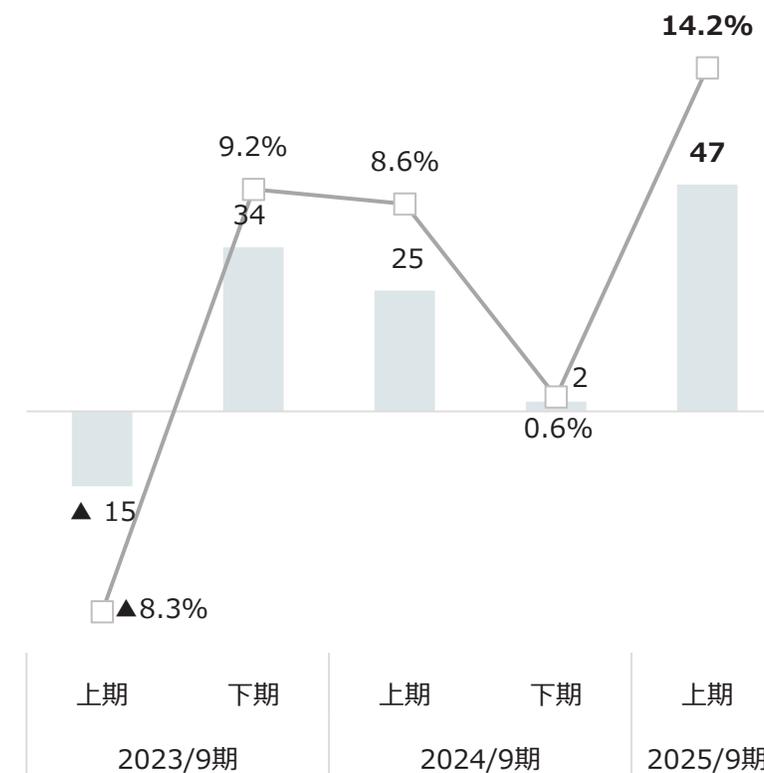
■ 機器 ■ 消耗品



## 営業利益推移

(百万円)

■ 営業利益 □ 同利益率

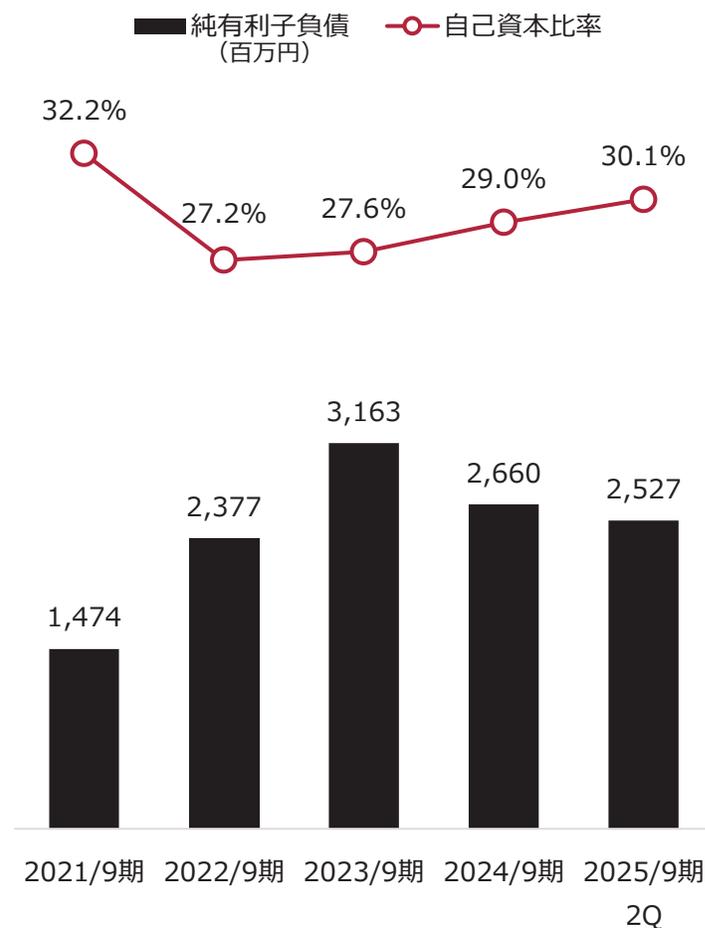


■ **自己資本比率は30%台を回復。**  
 期間損益順調に伴う純資産の拡大に加え、有利子負債の圧縮が奏功

■ **2Q末の有利子負債残高は40億円まで圧縮。現預金勘定を差し引いた純有利子負債残高は25億円台まで縮小**

(百万円)	23/9期	24/9期	25/9期2Q	前期末比増減
流動資産	6,119	5,660	<b>5,732</b>	+72
現預金	1,195	1,475	<b>1,485</b>	+10
売上債権	3,307	2,605	<b>2,644</b>	+39
棚卸資産	1,454	1,373	<b>1,390</b>	+17
固定資産	4,456	4,464	<b>4,443</b>	▲21
負債	7,660	7,191	<b>7,116</b>	▲75
買入債務	1,952	1,673	<b>1,655</b>	▲17
有利子負債	4,359	4,359	<b>4,012</b>	<b>▲123</b>
純資産	2,915	2,933	<b>3,059</b>	+126
総資産	10,575	10,124	<b>10,175</b>	+51

純有利子負債と自己資本比率の推移



FCFは3半期連続で黒字を確保。大型投資一巡もあり、キャッシュフローの確保に軸足を置いた展開

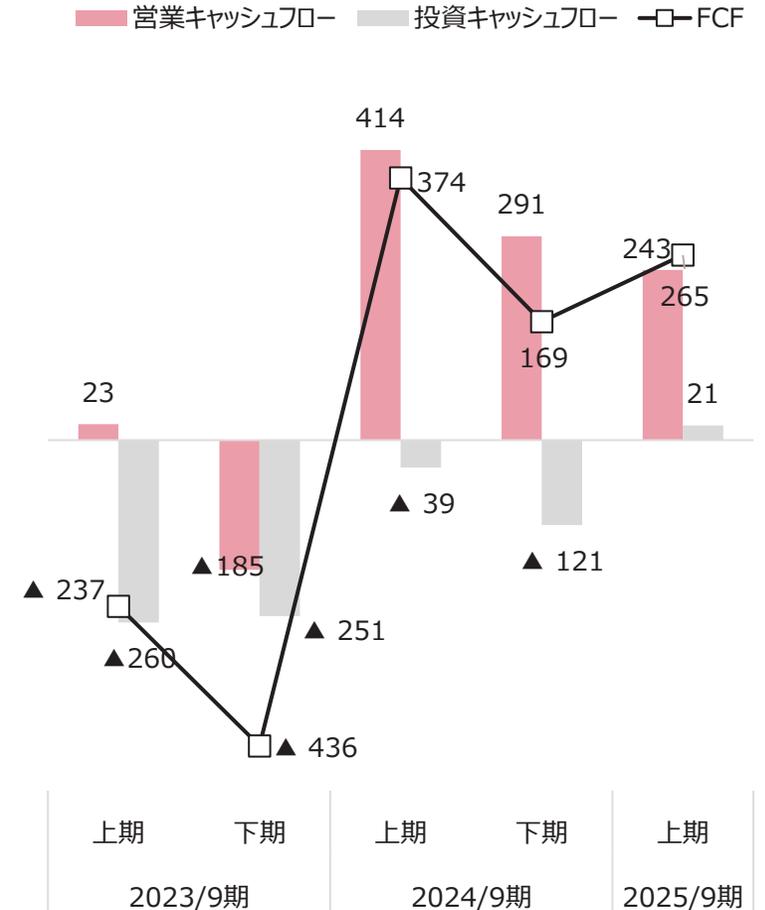
FCFは主として借入金の返済に充当。財務体質の改善は着実に進捗

(百万円)	23/9期		24/9期		25/9期
	上期	下期	上期	下期	上期
営業CF	23	▲185	414	291	243
運転資本増減	▲329	▲572	527	28	61
投資CF	▲260	▲251	▲39	▲121	21
固定資産取得	▲307	▲192	▲86	▲46	▲27
<b>FCF</b>	<b>▲237</b>	<b>▲436</b>	<b>374</b>	<b>169</b>	<b>265</b>
財務CF	326	63	▲135	▲147	▲197
借入金変動	405	▲66	▲79	▲143	▲141
配当金支払	▲53	-	▲53	-	▲53

\* FCF=営業CF+投資CF で算出

## CFの推移

(百万円)

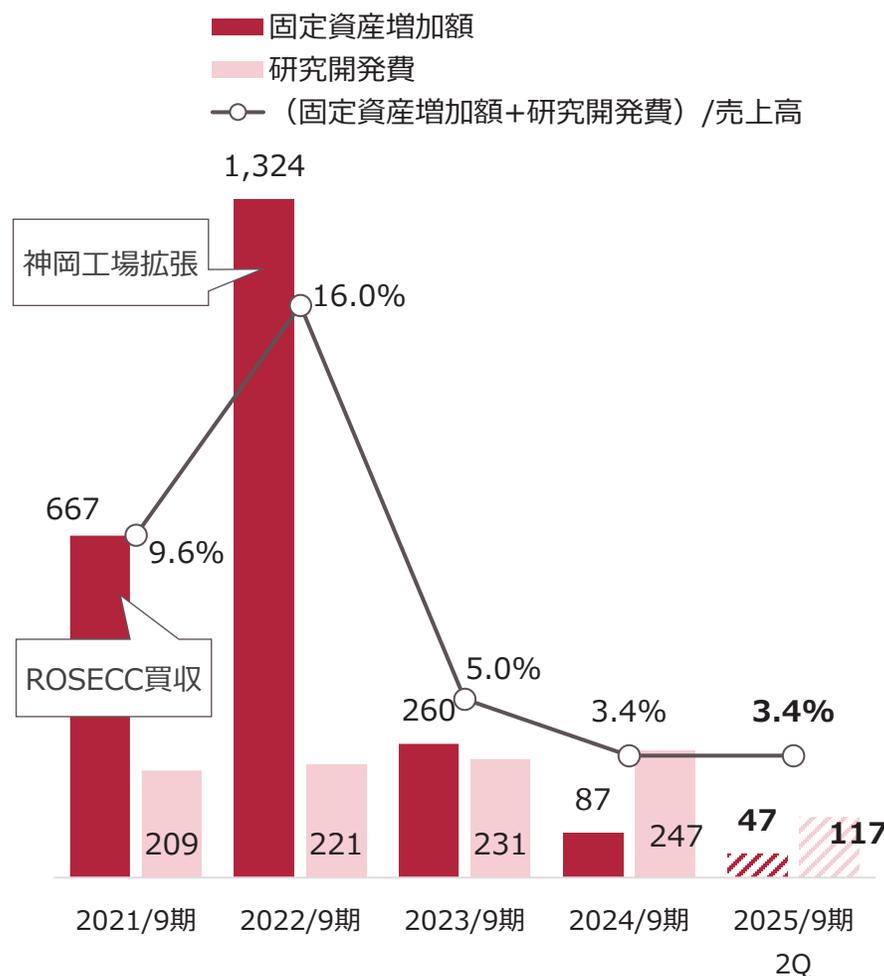


■ 設備投資は、大規模案件がほぼ一巡。今後もこれらの投資の成果を確認するフェーズに

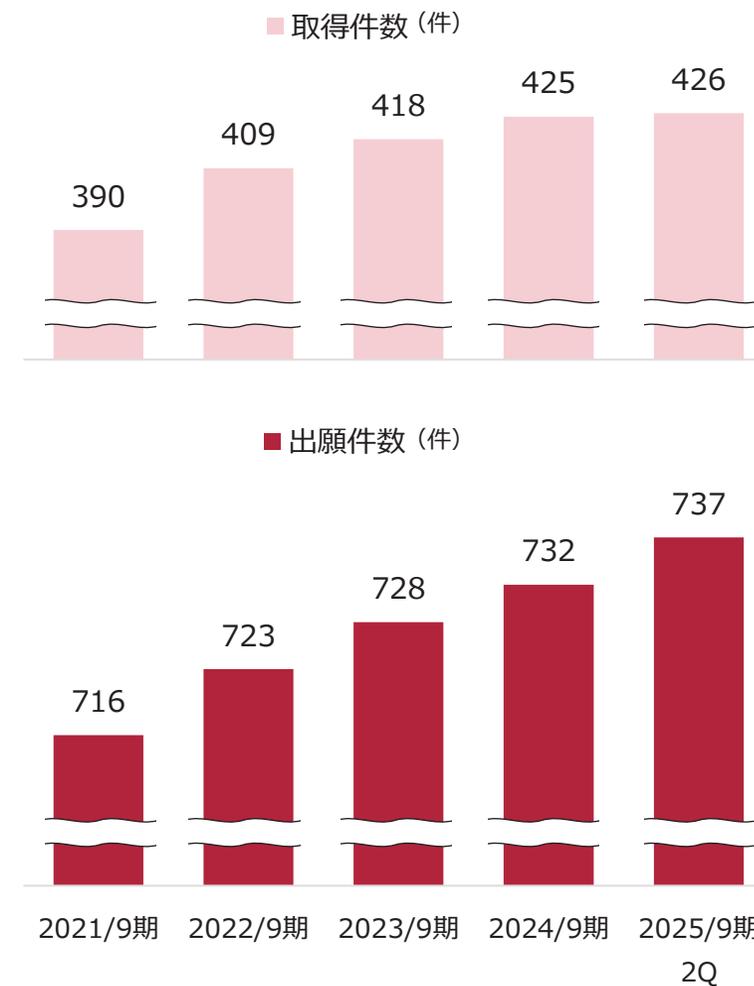
■ 特許取得件数も順調に積上げ。その先行指標となる特許出願数も高水準を維持

### 投資&研究開発費の推移

(百万円)



### 特許取得件数（累計）の推移



# 2025/9期 決算見通し

極東産機は、



■ **25/9期通期見通しを修正。**  
 売上高は減額修正となるも、営業利益は18%の増額修正

■ 売上高の見通し引下げは、インダストリーセグメントの端境期の影響が主因

■ 一方、利益の増額修正は、産業機器事業とインテリア事業の上期好調によるもの

■ なお、**関税リスク**に関しては、技術的な参入障壁やスイッチングコストの高さから、現時点では**当社への需要への影響は軽微と予想**

(百万円)	2023/9期	2024/9期	2025/9期				
	実績	実績	従来見通し	修正見通し	従来-修正 差異	前期比	
						増減額	増減率
売上高	9,888	9,781	10,500	<b>10,150</b>	<b>▲350</b>	<b>+369</b>	<b>+3.8%</b>
プロフェッショナル	7,147	6,692	7,275	<b>7,110</b>	<b>▲165</b>	418	+6.2%
コンシューマ	734	705	850	<b>860</b>	<b>+10</b>	155	+22.0%
インダストリー	1,462	1,719	1,625	<b>1,400</b>	<b>▲225</b>	<b>▲319</b>	<b>▲18.6%</b>
ニュー・インダストリー	549	663	750	<b>780</b>	<b>+30</b>	117	+17.6%
営業利益	314	115	300	<b>355</b>	<b>+55</b>	<b>+240</b>	<b>3.1倍</b>
プロフェッショナル	132	<b>▲184</b>	38	<b>▲20</b>	<b>▲58</b>	164	赤字縮小
コンシューマ	<b>▲12</b>	<b>▲12</b>	13	<b>42</b>	<b>+29</b>	54	黒字転換
インダストリー	175	284	305	<b>280</b>	<b>▲25</b>	<b>▲4</b>	<b>▲1.4%</b>
ニュー・インダストリー	18	27	20	<b>53</b>	<b>+33</b>	26	96.3%
経常利益	283	112	295	<b>350</b>	<b>+55</b>	<b>+238</b>	<b>3.1倍</b>
親会社株主帰属 当期純利益	102	76	175	<b>220</b>	<b>+45</b>	<b>+144</b>	<b>2.9倍</b>
営業利益率	3.2%	1.2%	2.9%	<b>3.5%</b>	<b>+0.6pp</b>	<b>+2.3pp</b>	
経常利益率	2.9%	1.1%	2.8%	<b>3.4%</b>	<b>+0.6pp</b>	<b>+2.3pp</b>	

■ 半期別に見ると、**下期は前年比で3.7%増収、56%営業増益**を想定

■ 下期が前年比増益となるのは、プロフェッショナルセグメントのインテリア事業の利益率が、販売価格見直し、減価償却費等の経費減少により大幅に改善

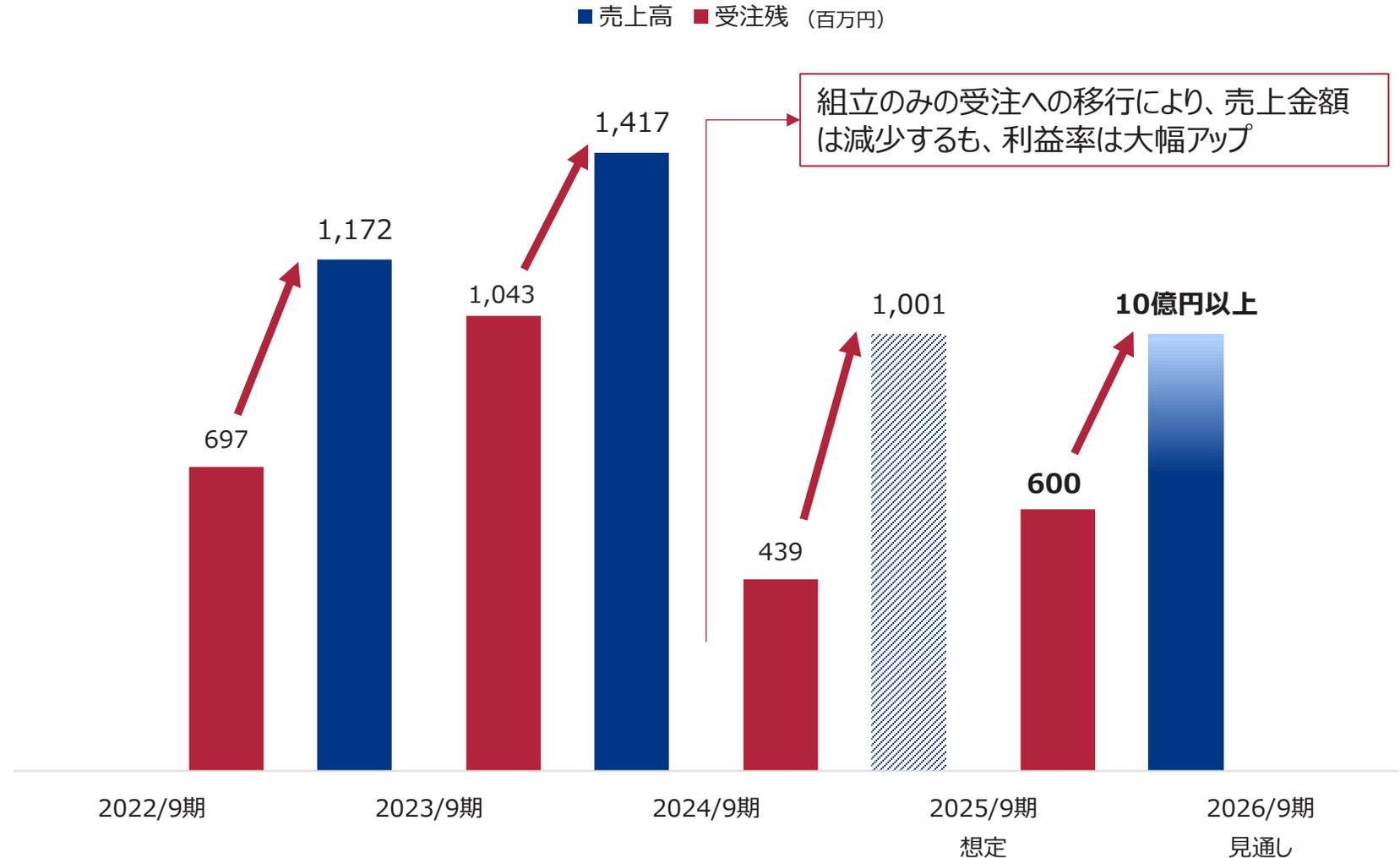
■ ただし、**対上期で見れば増収減益**。ニュー・インダストリーと食品機器事業の増収を見込む。一方産業機器事業で案件計上が端境期となるうえ、上期は値上げ前の駆け込み需要があったインテリア事業の減収が影響

(百万円)	2024/9期		2025/9期			
	上期	下期	上期	下期見通し	前年下期比	
					増減額	増減率
売上高	4,757	5,024	4,939	<b>5,210</b>	<b>+186</b>	<b>+3.7%</b>
プロフェッショナル	3,363	3,329	3,531	<b>3,578</b>	<b>249</b>	<b>+7.5%</b>
コンシューマ	364	341	398	<b>461</b>	<b>120</b>	<b>+35.2%</b>
インダストリー	731	988	679	<b>721</b>	<b>▲267</b>	<b>▲27.0%</b>
ニュー・インダストリー	298	364	330	<b>450</b>	<b>86</b>	<b>+23.6%</b>
営業利益	56	59	261	<b>92</b>	<b>+33</b>	<b>+55.9%</b>
プロフェッショナル	▲65	▲119	28	<b>▲49</b>	<b>70</b>	<b>赤字縮小</b>
コンシューマ	▲2	▲11	15	<b>26</b>	<b>36</b>	<b>黒字転換</b>
インダストリー	97	187	169	<b>110</b>	<b>▲76</b>	<b>▲46.8%</b>
ニュー・インダストリー	25	3	47	<b>5</b>	<b>3</b>	<b>2.5倍</b>
経常利益	41	70	240	<b>110</b>	<b>+40</b>	<b>+57.1%</b>
親会社株主帰属 当期純利益	11	64	172	<b>48</b>	<b>▲16</b>	<b>▲25.0%</b>
営業利益率	1.2%	1.2%	5.3%	<b>1.8%</b>	<b>+0.6pp</b>	
経常利益率	0.9%	1.4%	4.9%	<b>2.1%</b>	<b>+0.7pp</b>	

■ 産業機器の**期末受注残高は6億円を想定**。これらは基本的に足の長い案件であり、その翌期に売上計上となるケースが多いと認識

■ 加えて、期中で受注～出荷が完結する足の短い案件も存在。**2025/9期は比較的そういった足の短い案件が売上を積上げた状態**

■ 2026/9期は、受注残6億円に加え、足の短い案件の積極獲得により、**2025/9期と同程度の売上高確保を目指す**



# ビジョン80進捗状況

極東産機は、



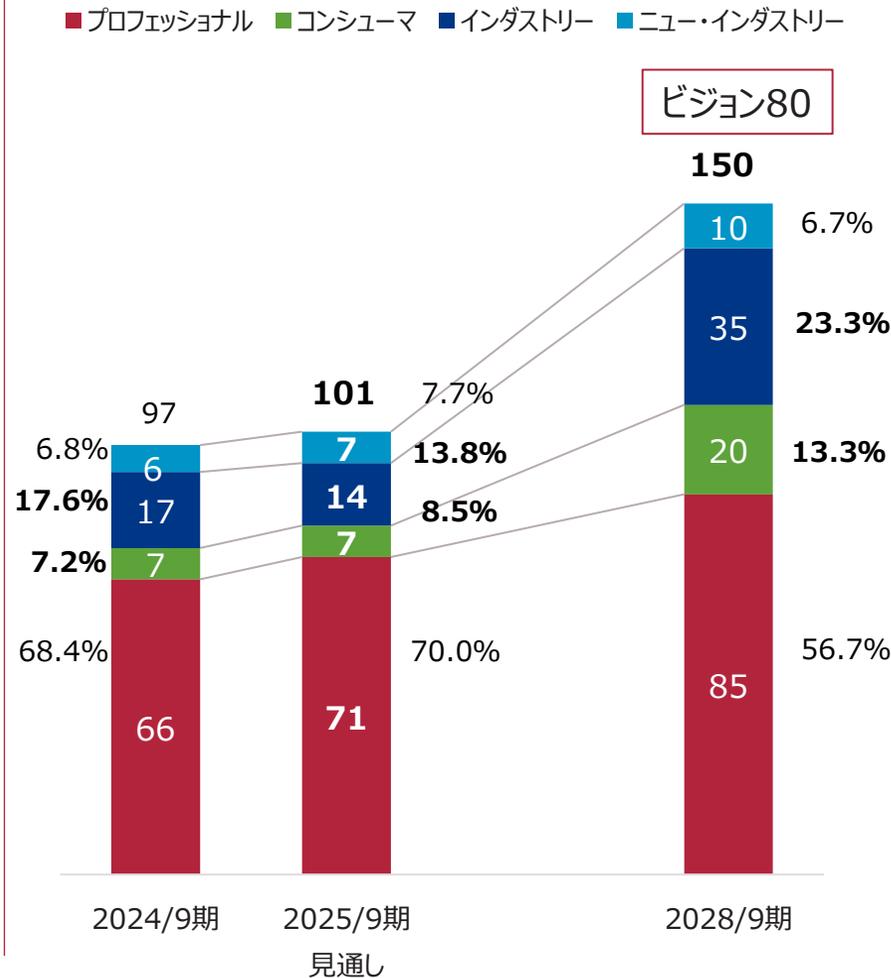
■ ビジョン80実現に向けて各種布石・施策を推進。今後も追加施策などを加え、目標数字達成に向けて注力

■ 売上面ではプロフェッショナル・コンシューマの両セグメントで成長に手応え。インダストリーセグメントも、一部契約の条件変更（一括から組立工程のみ）は逆風ながら、幅広い引き合い先からの案件獲得機会の拡大に向けて準備

■ 一方、営業利益面では目標との乖離はまだ大きいと認識。各自のKPIに具体的に落とし込むなど新たな仕組みづくりによる収益力の抜本的な引上げを急ぐ

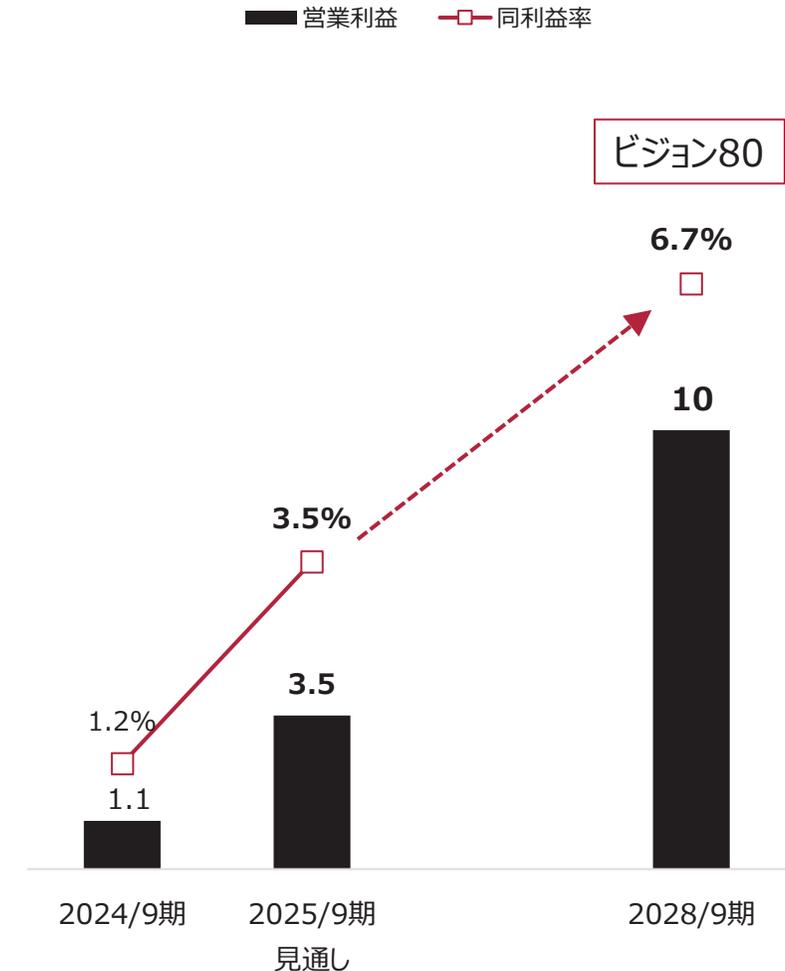
## セグメント別売上高目標

(億円)



## 営業利益目標

(億円)



■ 各セグメントにおける「成長課題」を絞り込み。プロフェッショナルセグメントでは新販路の開拓、コンシューマの黒字体質の定着、インダストリー/ニュー・インダストリーでは引き合力向上による機会損失の発生抑制と位置づけ

■ プロフェッショナルセグメントでは、既に新規開拓の販路候補をリストアップ。インテリア製品の2ケタ増収を目指す

■ コンシューマセグメントでは最適地生産による採算向上を、インダストリー/ニュー・インダストリーでは外注先活用などを通じ、対応キャパシティを引上げ

## プロフェッショナル・セグメント : 新販路開拓

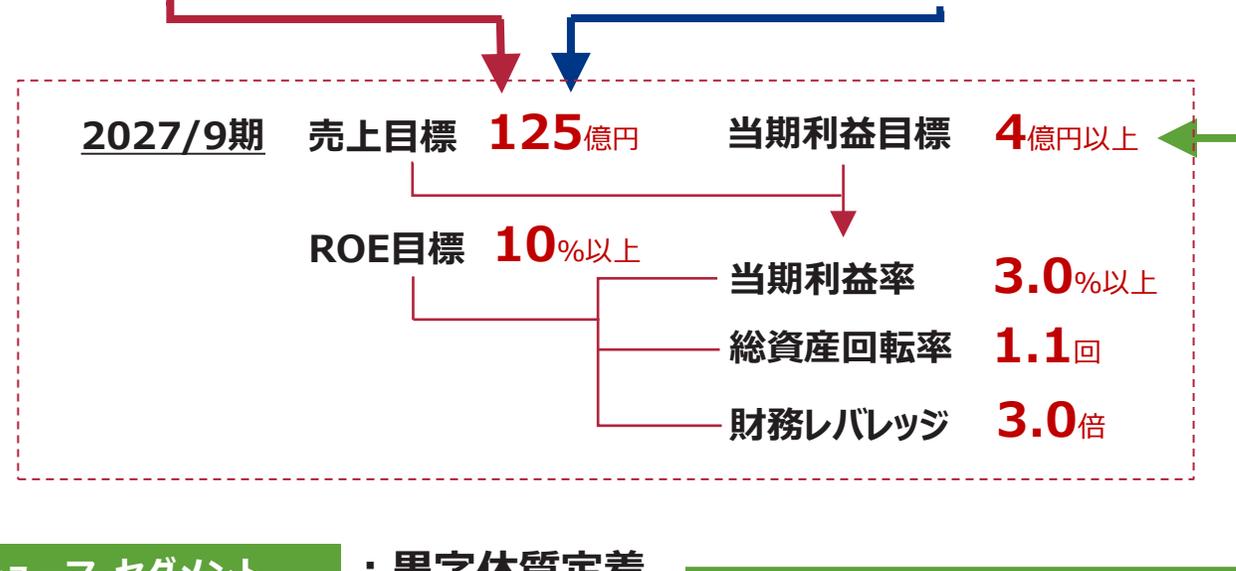
- ✓ インテリア部門の新販路としてホームセンター、防水（屋根）業界などをリストアップ
- ✓ 2028/9期までにインテリア事業で2ケタの売上成長を目指す

## インダストリーセグメント

## ニュー・インダストリーセグメント

## : 引合対応力向上

- ✓ 若手の育成や間口を広げる案件への設計/開発の外注先活用を通じ、引合対応力を向上
- ✓ 機会損失の発生を抑制し、受注件数を増加



## コンシューマ・セグメント : 黒字体質定着

- ✓ 最適地生産や部門間統合・相互乗入による効率性向上により、黒字定着へ
- ✓ 棺用豊仕入の海外比率はかつて50%から上半期はゼロにコントロール

# Appendix

極東産機は、



■ 畳製造装置や自動壁紙糊付機等の住宅に関わる製品や、地元産業との異業種交流から始まった食品機器の開発を通じ、長年培ってきた7つのコア技術を活用した産業機器の開発・製造やFactory Automation化の提案で、ものづくり現場に貢献

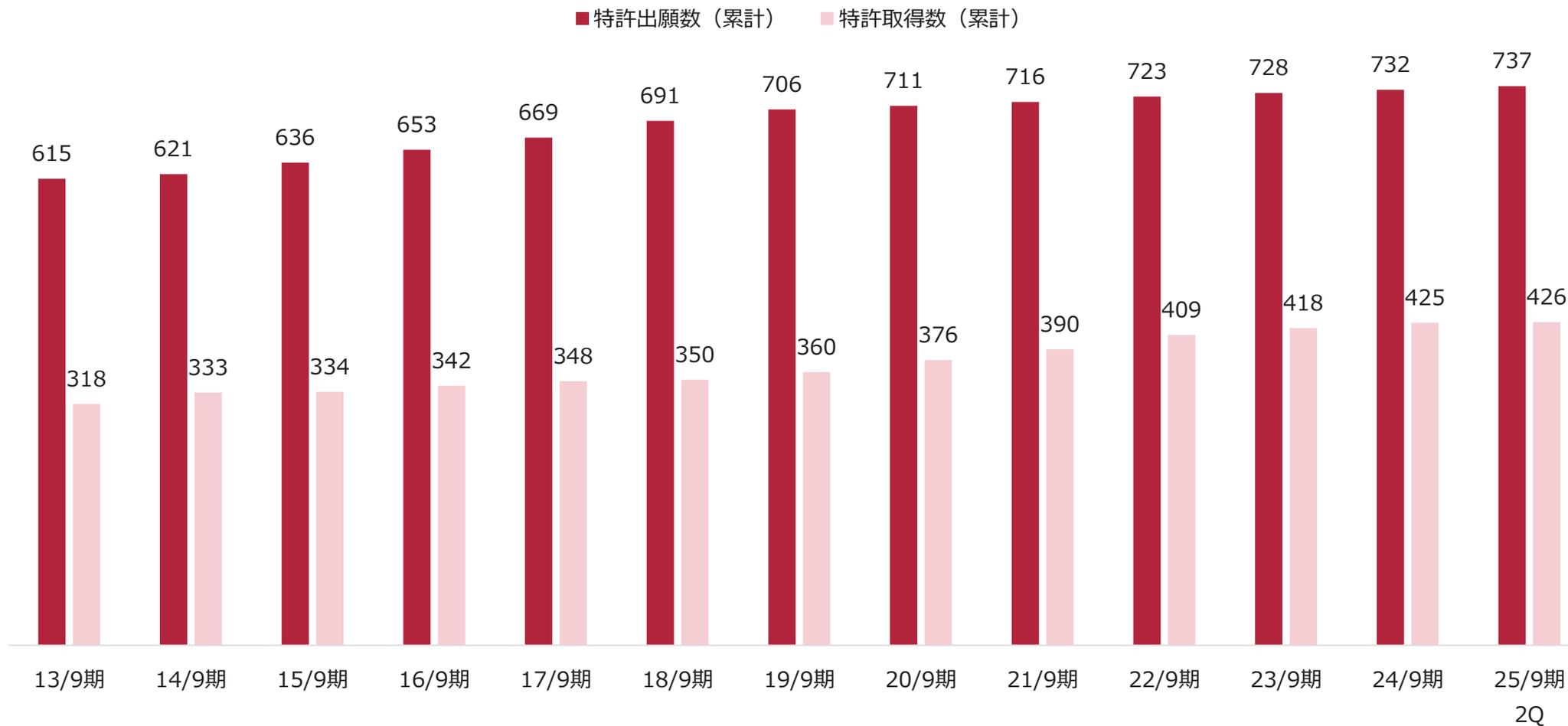


	当社のテリトリー 創業来この分野への挑戦を継続	通常の機械メーカーのテリトリー
対象物	形状が不均一 破れやすくシワになり易いモノ  機械化の困難なモノ	規格製品 変形せず掴み易いモノ  機械化の容易なモノ
Point	<ul style="list-style-type: none"> <li>職人技術の世界への参入</li> <li>全ての要素技術が同時に満たされなければ職人と対抗不可</li> <li>その結果、他社では実現困難な機能の提供が可能に</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>多数の企業が参入可能</li> <li>要素技術は分業化傾向</li> </ul>

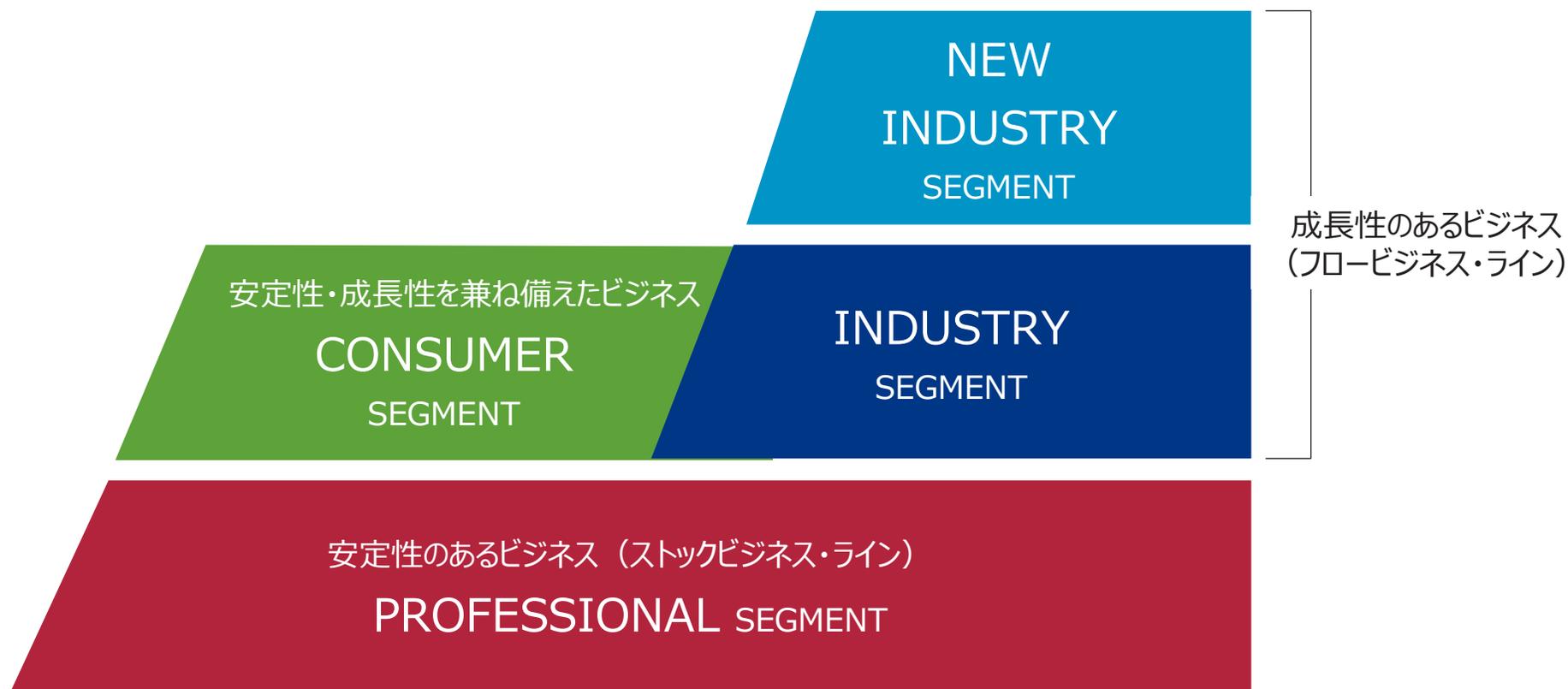
経験とノウハウの蓄積

機械化の実現

## 開発を通じて蓄積した技術については積極的に特許の取得を推進



- 当社はこれまで、創業以来の「プロフェッショナルセグメント」が、技術力と商品力を駆使して新商品を開発し、新市場を作り続けてきた
- 今後とも、「安定性」のある「プロフェッショナル」と「成長性」のあるその他3セグメントが、それぞれの強みの相乗効果を発揮してさらなる発展を遂げていく



		2020/9期	2021/9期	2022/9期	2023/9期	2024/9期	2025/9期2Q
売上高	(千円)	8,006,367	9,169,425	9,660,071	9,888,009	9,781,915	<b>4,939,887</b>
経常利益	(千円)	81,586	273,578	194,796	283,732	112,050	<b>240,027</b>
当期純利益	(千円)	67,685	189,534	143,422	102,307	76,273	<b>172,927</b>
資本金	(千円)	631,112	631,112	631,112	631,112	631,112	<b>631,112</b>
発行済株式総数	(株)	5,391,000	5,391,000	5,391,000	5,391,000	5,391,000	<b>5,391,000</b>
純資産額	(千円)	2,673,643	2,780,993	2,841,288	2,915,188	2,933,339	<b>3,059,385</b>
総資産額	(千円)	7,591,862	8,625,240	10,430,851	10,575,752	10,124,388	<b>10,175,829</b>
1株当たり純資産額	(円)	495.95	515.86	527.05	540.76	544.13	<b>597.51</b>
1株当たり配当額	(円)	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	–
1株当たり当期純利益金額	(円)	12.56	35.16	26.60	18.98	14.15	<b>32.08</b>
自己資本比率	(%)	35.2	32.2	27.2	27.6	29.0	<b>30.1</b>
自己資本利益率	(%)	2.5	6.9	5.1	3.6	2.6	–
配当性向	(%)	79.6	28.4	37.6	52.7	70.7	–
営業活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	124,059	460,771	263,057	▲162,264	705,569	<b>243,869</b>
投資活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	▲32,338	▲794,812	▲1,088,497	▲512,180	▲161,018	<b>21,144</b>
財務活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	▲70,960	442,782	757,699	390,093	▲282,904	<b>▲197,303</b>
現金及び現金同等物の期末残高	(千円)	1,046,348	1,155,091	1,087,351	803,000	1,064,646	<b>1,132,357</b>
従業員数	(人)	281	292	295	298	300	–
(外、平均臨時雇用者数)	(人)	(23)	(25)	(29)	(29)	(27)	(–)

## < 見通しに関する注意事項 >

当資料に記載されている内容は、いくつかの前提に基づいたものであり、将来の計画数値や施策の実現を確約したり保証したりするものではありません。

問い合わせ先  
管理本部総務部 IR担当  
0791-62-1771 (代表)  
ir-info@klass-corp.co.jp